

許すな！

憲法生かし外交努力こそ

核共有威嚇

ロシアによるウクライナ侵略と「核威嚇」、それに乘じた「核共有論」について、

日本原水爆被害者団体協議会の木戸季市事務局長に聞きました。（加來恵子）



ロシアのウクライナ侵攻に怒りと歎惜を感じて気が休まることがあります。

人類破壊の兵器ロシア軍は、人間を標的にし、無差別に殺戮しています。それらは、国連憲章、国際法、人道法に反する行為です。



戦争の行きつくところが核戦争です。武力対武力で紛争は解決しないし、核兵器の存在で戦争を抑止することはできません。くすしかありません。

日本原水爆被害者団体協議会

木戸季市 事務局長

「核抑止」論は成り立たないけれども、核戦争が起きる危険は高まっています。人類を破壊する核兵器はなげ、世界の世論で核兵器使用を押しつけてきた結果です。そうした国々と市民社会が一緒になって発効させたのが核兵器禁止条約です。

広島、長崎への原爆投下以来、核戦争は起きません。それは、世界の市民社会や被爆者が声をあげ、世界の世論で核兵器使用を押しつけてきた結果です。そうした国々と市民社会が一緒になって発効させたのが核兵器禁止条約です。

対話や連帯の力

コスタリカは軍隊をなくす。

1946年に草案があり、47年に施行された日本国憲法について父親が「日本は戦争をしないと誓った」と話した時、心から喜びました。

1946年に草案があり、47年に施行された日本国憲法について父親が「日本は戦争をしないと誓った」と話した時、心から喜びました。

被爆者は、憲法に支えられ、「再び被爆者をつくる」ことを防ぐために、国連憲章、国際法、人道法に反する行為です。

コスタリカは軍隊をなくす。周辺国に対し、脅威を与えない国だと示しました。常備軍を廃止し、必要な部隊を維持するようにしています。軍隊にかけていた予算を教育へまわし、暴力や武闘ではなく、対話や連帯の重要性を子どもたちから教えることを重視しています。

日本国憲法は、コスタリカに先駆けて武力を放棄し、紛争の平和解決と平和秩序の構築を掲げたのですが、歴代国民党を中心とした保守政権は、再軍備と軍事同盟強化をすすめ、一貫して憲法改悪を追求し続けています。この危険な動きに対し大きな運動をつむぎます。禁止条約採択にあたり尽力した議員がコスタリカ出身でした。

軍隊をもたないコスタリカという国が中南米にあります。禁止条約採択にあたり尽力した議員がコスタリカ出身でした。

軍隊をもたないコスタリカという国が中南米にあります。禁止条約採択にあたり尽力した議員がコスタリカ出身でした。

軍隊をもたないコスタリカは、専守防衛どころか、攻撃するに難しく、先制攻撃にもつながるもので、憲法違反です。

敵基地攻撃能力の保持は、周辺国に対する脅威を示します。常備軍を廃止し、必要な部隊を維持するようにしています。軍隊にかけていた予算を教育へまわし、暴力や武闘ではなく、対話や連帯の重要性を子どもたちから教えることを重視しています。

対話で解決しない問題はありません。いまこそ憲法をいかし、対話による外交努力でアジア地域から平和のメッセージを発信し、実現する必要があります。